



岡崎和郎 「御物補遺」 Kazuo Okazaki *Object Supplements*

会期 2018年11月20日(火) - 2019年1月19日(土)

会場 ギャラリーあしやシューレ Galerie Ashiya Schule

休廊 日・月・祝日・11/24(土)・年末年始(12/23~1/6)

2018年11月20日から2019年1月19日まで、岡崎和郎「御物補遺」展を開催致します。

Galerie Ashiya Schuleでは、2015、2016に続いて三度目の個展となる本展は、半世紀以上に及ぶ活動の作品に一貫して展開される「御物補遺」思想に再び焦点を合わせた展覧会となります。

岡崎和郎は、1950年代なかばにオブジェ制作をはじめてからほぼ60年間、独自の造形思想のもとに多種多様なオブジェを制作しています。「内部」を制作の基本とした初期のオブジェは、外と内、表と裏、虚と実をめぐる問いかけを示していましたが、次いで手の痕跡や人間の痕跡といった人間全般へと対象が広がり、その後一貫して「御物補遺」(Object Supplements)と呼ばれる造形思想のもとに制作を続けています。

『岡崎の作品は、既知の世界から未知の世界へと想像力を馳せさせるのではなく、裏返しの世界という未知の世界から、この日常的な世界を覗かせるという構造をもっている。これまた、裏返しの想像力ともいべき特異なものなのである。』

— 裏返しの想像力 中原祐介 1966 岡崎和郎 東京画廊

1970年代半ばからの《HISASHI》や、〈Who's Who〉「人名録」シリーズなど、それぞれの手法は全く異なるものの、多様化するシリーズ群は、一貫して「補遺」(Supplements)のオブジェ思想が貫かれています。

『庇は、母屋にたいして補助的なものだという点で、サブメントそのものといっている。美術という既存概念にたいして、補助的な領域を開拓するのだという意図…(略)…実は、本体である美術が腐蝕してしまって、『ひさし』でもつけないと倒れそうだというジョークでもある。』

— 『ひさし』のサブメント 磯崎新 1978 『HISASHI』サブメントギャラリー

近年は、自然に対する言及や問いかけが作品化し、樹木や石、溶岩などの自然物をそのまま引用した作品が現れ、それらのオブジェが重層的に配置されて立ち上がる空間は「補遺の庭」と呼ばれます。

『《HISASHI》は壁にとりついて水平に突きだしているの、その上と下とが知覚される。天と地への視野がひらかれる。下に入れば文字どおり庇護される。建物の庇だけでなく、自然界に遍在する庇、木や岩の蔭とか、雪庇とか、あるいは帽子の庇、手庇、意図せずにかぶさってくる何者かなど、さまざまなアナロジーが連鎖して、世界とは何か、宇宙とは何かにまで想像がおよぶ。』

— 岡崎和郎-オブジェの不思議な世界 巖谷國士 2016 見立ての手法 Who's who 北九州市立美術館・千葉市美術館

幾何学的立体や鉄の棒が組み合わされたオブジェのなかに、《HISASHI》が掲げられることで暗示される、より広範な世界観。それぞれの異なるオブジェに通底する世界は、自然と人間そして芸術という大きなテーマを支える概念であり、点と点が繋がるように「補遺の庭」が導き出されていきます。

『ポストミニマルズの時代において、岡崎のHISASHIは、そのシンプルな外観にもかかわらず、複雑なメカニズムを作動させて、インデックスとアンフォルムのアンビヴァレンス、そして観者との関係に対する非擬人主義的なアプローチをつくり上げた。そこに岡崎のHISASHIの独自性があるのである。』

— 現代美術史のなかのHISASHI 加治屋健司 2017 岡崎和郎 HISASHI ozasakyoto

西洋と東洋美術の位相についての問いかけ、虚と実・内と外・表と裏の反転、さらに極薄(アンフラマンズ)の概念への関連へと、私たちは、岡崎作品の持つ刺激のもとに新たな感受性を開かされ、さまざまな思考を呼び起こされます。作品と観者との対話が現代美術の魅力とすれば、岡崎和郎オブジェの問いかけ自体が、現代を生きる私たちの根源的なあり方を考えるきっかけとなるに違いありません。

関連展覧会として、DIC 川村記念美術館では「言語と美術—平出隆と美術家たち」展が開催されています。ジョセフ・コーネル、ドナルド・エヴァンス、加納光於、河原温、中西夏之、奈良原一高、岡崎和郎、滝口修造、若林奮など、平出隆が交流した美術家たちの作品が紹介されています。併せてご案内いたします。

DIC 川村記念美術館 「言語と美術—平出隆と美術家たち」 2018年10月6日—2019年1月14日

<ジョセフ・コーネル ドナルド・エヴァンス 加納光於 河原温 中西夏之 岡崎和郎 奈良原一高 滝口修造 若林奮ほか>

岡崎和郎 Kazuo Okazaki

1930 岡山市生まれ  
1955 早稲田大学文学部芸術学専攻美術専修卒業  
1954-56 早稲田大学文学部大学院美術史専攻

| 主な個展 |

- 2018 「岡崎和郎 ひさし・枝・空気」、横田茂ギャラリー（東京）
- 2017 「岡崎和郎—HISASHI」、ozasakyoto（京都）
- 2016 「岡崎和郎 Who's Who—見立ての手法」、北九州市立美術館分館（北九州）  
「岡崎和郎展 御物補遺」、ギャラリーあしやシューレ（兵庫）  
「岡崎和郎 Who's Who—見立ての手法」、千葉市美術館（千葉）  
「岡崎和郎 心器考」、横田茂ギャラリー（東京）
- 2015 「岡崎和郎 御物補遺」、ギャラリーあしやシューレ（兵庫）  
「岡崎和郎 ピート・モンドリアンのいま」、横田茂ギャラリー（東京）
- 2014 「岡崎和郎 絵葉書富嶽三十六景考」、横田茂ギャラリー（東京）
- 2013 「岡崎和郎 心・棒・考」、横田茂ギャラリー（東京）
- 2012 「岡崎和郎 物物語考 -虫の知らせ-」、横田茂ギャラリー（東京）
- 2011 「岡崎和郎—図書館プロジェクト」、世田谷区立玉川台図書館（東京）  
「岡崎和郎 富士見定規を中心として」、横田茂ギャラリー（東京）  
「岡崎和郎展 『一節一葉』」、ギャラリエ・アンドウ（東京）
- 2010 「岡崎和郎展 補遺の庭」、神奈川県立近代美術館 鎌倉  
「岡崎和郎 補遺としての写真」、横田茂ギャラリー（東京）
- 2009 「岡崎和郎展 『黒い雨によせて』 —もう1つのヒロシマドーム—」、ギャラリエ・アンドウ（東京）  
「岡崎和郎 林檎—ウィリアム・テルによせて」、横田茂ギャラリー（東京）
- 2008 「岡崎和郎 “さるのこしかけ”が与えられた時、補遺の庭に立ち現れた三つの知覚像」、横田茂ギャラリー（東京）
- 2007 「岡崎和郎」、横田茂ギャラリー（東京）  
「岡崎和郎」、ギャラリエ・アンドウ（東京）
- 2006 「岡崎和郎」、京都精華大学 ギャラリーフロール（京都）  
「岡崎和郎 補遺の庭—HISASHI と水と—」、横田茂ギャラリー（東京）
- 2005 「岡崎和郎」、ギャラリエ・アンドウ（東京）  
「岡崎和郎 補遺の庭—P.モンドリアンの風景」、横田茂ギャラリー（東京）
- 2004 「岡崎和郎 補遺としての鏡」、横田茂ギャラリー（東京）
- 2003 「岡崎和郎」、ギャラリエ・アンドウ（東京）  
「岡崎和郎」、横田茂ギャラリー（東京）
- 2002 「岡崎和郎 刻まれた雨」、横田茂ギャラリー（東京）  
「岡崎和郎展」、ギャラリエ・アンドウ（東京）
- 2001 「HISASHI 光と陰を割かつもの」、奈義町現代美術館（岡山）  
「岡崎和郎 贈物」、吉備高原アートハウス（岡山）  
「岡崎和郎 HISASHI 2001」、横田茂ギャラリー（東京）
- 2000 「MULTIPLE PROJECT 岡崎和郎 マルチプル 1963-2000」、横田茂ギャラリー（東京）（主催：TPH）  
「岡崎和郎」、ギャラリエ・アンドウ（東京）  
「岡崎和郎 ものの気憶」、横田茂ギャラリー（東京）

- 1999 「補遺の庭 天に」、ヒロ・チカシゲギャラリー（岡山）  
「岡崎和郎 補遺の庭 天に」、横田茂ギャラリー（東京）  
「岡崎和郎」、ギャラリエ・アンドウ（東京）
- 1998 「岡崎和郎 WHO'S WHO」、横田茂ギャラリー（東京）  
「HISASHI + 御物補遺」、コオジオグラギャラリー（名古屋）  
「HISASHI」、ヒロ・チカシゲギャラリー（岡山）  
「岡崎和郎 hisashi—その次元考」、横田茂ギャラリー（東京）
- 1997 「岡崎和郎」、天満屋岡山店美術ギャラリー  
「岡崎和郎」、倉敷市立美術館
- 1996 「岡崎和郎 補遺の庭」、横田茂ギャラリー（東京）
- 1995 「pax 岡崎和郎 黒い雨によせて」、横田茂ギャラリー（東京）
- 1994 「岡崎和郎 hisashi 有機的記憶について」、横田茂ギャラリー（東京）
- 1993 「シリーズ[物補遺]」、ヒロ・チカシゲギャラリー（岡山）  
「岡崎和郎 hisashi 補遺するもの」、横田茂ギャラリー（東京）
- 1992 「岡崎和郎」、横田茂ギャラリー（東京）
- 1991 「物補遺」、ギャラリー ムカイ（東京）  
「岡崎和郎」、横田茂ギャラリー（東京）
- 1990 「岡崎和郎 物 補遺」、横田茂ギャラリー（東京）
- 1989 「岡崎和郎 hisashi」、横田茂ギャラリー（東京）
- 1979 「GARASU」、サプリメント・ギャラリー（東京）
- 1978 「HINOMARU」、サプリメント・ギャラリー（東京）  
「HISASHI」、サプリメント・ギャラリー（東京）
- 1966 「岡崎和郎」、東京画廊（東京）

| public collection |

国立国際美術館

東京国立近代美術館

東京都現代美術館

神奈川県立近代美術館

倉敷市立美術館

高松市美術館

千葉市美術館

豊田市美術館

奈義町現代美術館

北海道立近代美術館

町田市立国際版画美術館

富山県美術館

大分県立美術館

フィラデルフィア美術館[アメリカ]

S-HOUSE ミュージアム

京都精華大学

パーフェクトリバティ教団

富士山交流センター

富士ゼロックス

作品に関する問い合わせ、掲載用写真のご要望、ご質問がございましたら、下記までお問合せください。

ギャラリーあしやシューレ

〒659-0016 兵庫県芦屋市親王塚町 3-11

Tel : 0797-20-6629

mail : [info@ashiyaschule.com](mailto:info@ashiyaschule.com)

website : [www.ashiyaschule.com](http://www.ashiyaschule.com)